



もりや ましろちゃん
(6さい)

かぞく みんな おすしが
だいすき。おすしやさんに
なって だいすきな たまごの
おすしを たくさん にぎりたいの。



おひさま保育園のおともだち



こすぎやま かずはくん
(5さい)

ケーキやさんに なって
まるくて おおきな ケーキを
つくるんだ。もうすぐ たんじょうび。
イチゴの のった ケーキだと いいな。

がんばっているあなたがすぎ

シリーズ・ひと

すべては大好きな町の発展のため

名木ツアーのガイドを務める

須田 文男さん(80歳・泉)



2007年から、春と秋の年2回開催されている名木ツアー。(21ページ参照)2006年に選定された町の名木を巡るツアーは毎回人気ですが、このツアーで名木の案内や解説を務めるのが須田さんです。須田さんは、名木選定の際の選考委員長を務めました。

かつて、営林署や自然公園財団に勤めていたということもあり、縁あって名木の選定やツアーに携わらせていただいています。弟子屈は昔は林業の町でした。現在も、国有林や国立公園に囲まれた緑豊かな大地であることに変わりはなく、これからも森林は守っていかなければならないと思っています。身近な森林を皆さんが大切にすることをきっかけとして、名木が役に立てたらうれしいと思います。名木の選定に当たって、心がけたことはありますか。

「まずは見映えという点で、大木であるということ。長く皆さんに親しんでいただけるよう、丈夫で長持ちする木であること。開拓の時代の名残など、歴史的背景を持って地域に親しまれてきた木であること。この3点に心を配りました。その上で、同じような木ばかりにならないよう、樹種のバランスにも気をつけました。」

こうして選定からかわっている名木だけに、ツアー時の須田さんのガイドは、大変興味深く勉強になると、参加者の皆さんからも好評です。

「毎年のこととはいえ、事前には必ず3、4日ほどは勉強してツアーに臨みます。半年、1年とはいえ時間は積み重なっていくのですから、名木や名木を取り巻く環境などにも変化があります。毎回同じガイドでいいはずがありません。」

これまでに、交通安全協会長などさまざまな要職を歴任している須田さん。勉強熱心な姿勢は、そういった分野などでも発揮されてきました。

1931(昭和6)年に、静岡県県の伊豆から家族とともに仁多に入植しました。学校を卒業し、就職で離れるまで弟子屈で育ったので、この町に対する思い入れはあります。自然公園財団の所長として1983(昭和58)年に弟子屈に戻ってこれたときは、本当にうれしかった。以来、いろいろな団体のさまざまな活動にも携わってききましたが、すべては大好きな町の発展のためです。年齢もあり、現在は重職は退きましたが、自分ができることで町が元気になるお手伝いをこれからも続けていきたいと思っています。」

墨と顔彩(がんさい)という絵の具で、はがきの上に思い思いの絵と言葉を乗せ、届けたい誰かに贈る絵手紙。この絵手紙を楽しんでいるのが、摩周湖絵手紙の皆さんです。



摩周湖絵手紙の皆さん
後列左から2人目が代表の千葉さん、前列左端が講師の小野寺さん

結成は2001(平成13)年6月。きっかけは、公民館主催の絵手紙講座で

した。現在も摩周湖絵手紙の指導を行う小野寺さんが(日本絵手紙協会公認講師)を講師に招き、全3回の講座が開催されました。受講者の有志が「これからも絵手紙を続けたい」とサークルを結成。月一度の活動を続け、現在に至ります。「軽い気持ちで受講したけど、なぜかハマってしまっただけで、あそこは毎日のように絵手紙を書いていました」「同じくはまった友人からも、毎日絵手紙が届いて楽しかった」と話すのは、辻谷幸代さんと代表の千葉さん。サークル結成時からのメンバーです。同じく結成時からのメンバーの金川茂子さんは88歳。4月には米寿記念の個展を開催するなど、先生が「目指せ金川さん」と賞賛するほど活躍しています。

講師の小野寺さんは「性別、年齢、時間の有無など、いろいろなことに関係なく楽しめるのが絵手紙だと思えます。自分やアンテナを立てて、感性や興味に引かれたものを、ありのままの自分の絵と言葉で発信していく。これが人間関係づくりや健康づくりにとてもいいんです。皆さんにも元気で長く続けてほしい」と話します。会員の皆さんも「活動の中で友達ができるのがうれしい」と話し、和気あいあいと楽しんでいます。

We are enjoying !!
サークル
おじゃまします!

摩周湖絵手紙
代表・千葉 啓乃さん
会員・9人



和やかな雰囲気ながら筆運びは真剣そのもの